

コシヒカリ生育情報 第8号

飽水管理と追加穂肥で連続高温を乗り切ろう！

【7月31日生育状況】（管内3か所平均、平均田植日5/17）

草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
94	106%(やや長い)	415	109%(やや多い)	13.4	+0.2(並み)	31.9	-1.0(やや淡い)

- ・葉色は指標値と比べてやや淡く、管内ではSPAD値30を下回るほ場もみられる。
- ・出穂期は5月20日田植えの場合、8月2日と見込まれる。
- ・8月2日～7日は34～36℃の最高気温が予想されている（7/31 17:00 週間天気予報 新潟地方気象台）。また、8月6日頃からかなりの高温が予想されている（7/31 早期天候情報 同）。

【今後の管理のポイント】

1 最も水が必要な時期！飽水管理※を徹底

- (1) 出穂・開花期にかけては、イネが水を最も必要とする時期である。
限りある用水を有効活用し、飽水管理に努める。
- (2) 飽水管理により、根の活力を維持するとともに、地温の上昇を抑える。また、穂肥成分の溶出を図る。
- (3) フェーン現象等による異常高温や乾燥が予想される場合には、地域の用水計画に応じて早めの湛水に努める。

※飽水管理

水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水すること。

2 葉色が淡いほ場が多い。出穂期3日前（走り穂が出る頃）までに追加穂肥

出穂期の葉色が、めやすのSPAD値32～33を下回ると予想される場合は、出穂期3日前（走り穂が出る頃）までに窒素成分で1kg/10aをめやすに追肥する。

※地力に応じて施用量を増減する。

※有機100%肥料を使用する場合は施用量を増やす。

J Aが葉緑素計(SPAD)を貸し出していますので、各営農センターにお問い合わせください。

3 斑点米カメムシ類の薬剤防除は、出穂期をふまえ、各薬剤に応じた適期に実施

水面施用剤は、水深3cm程度の浅水条件で、散布後好天が予想される日に散布する。

農作業中の熱中症に注意しましょう。こまめな水分と塩分の補給や休憩が大切です。